

IV-244

# 大阪市における表通りの街路景観特性の研究

大阪産業大学工学部 正 員 楠 原 和 彦  
 大阪産業大学工学部 正 員 大 島 秀 樹  
 大阪産業大学工学部 学生員 吉 田 昌 弘  
 アーバンスタディ研究所 正 員 中 田 かおる

## 1. はじめに

都市の歩道は、通行という機能を持つだけでなく、遊歩、防災、通風など様々な働きを持っている。われわれは、大阪市の表通りの遊歩空間としての歩道を対象に、歩行者の視覚が捉える景観構成要素が、景観にどのような影響を与えているのか、その評価の構造を分析し、街路景観の現状を把握することを目的として本研究を実施した。本稿は、その成果のうちから、大阪市の表通りの街路景観を「大阪らしさ」と「色」の観点から分析した結果を報告するものである。

## 2. 街路景観の調査地点と分析手法

大阪都心部の表通り14路線の歩道を対象に100m～200m間隔で写真撮影を行い、そのうち52地点の写真を用いてアンケートと色彩分析システム<sup>1)</sup>を用いた景観評価を実施した。

## 3. アンケートによる街路景観評価

**3-1 アンケートの概要** 20代の大学生及び大学院生をサブリとし、開放感、親近感、統一感・調和、総合評価に対する評定尺度法を用いたアンケートを実施した。また、対象歩道を似たもの同士にグループ分けする評価を併せて実施し、グループ分けされた歩道群のうち最も大阪らしい雰囲気を持つのはどのグループかという回答を求めた。

**3-2 街路景観のグルーピング** 対象のペアが同一のグループに入るとした被験者数と総被験者数との比を類似度とし、類似度が高い順に歩道を集約した結果、6つのグループが得られた。また、図.1に示すように、各グループに属する歩道の景観評価値はよく似た傾向を示していることがわかった。グループ1の定性的特徴は整然としたオフィス街であることで、景観評価では調和・統一感の評価値が他の項目より高くなっている。グループ2の特徴は雑然とした商店街的街路で、開放感が少

なく親近感の評価が高い。グループ3は倉庫やシャッターが目立つ街路で、全ての評価値が低い。グループ4は伝統的な寺院の塀に沿った特殊な歩道で、都心部の街路としては開放感が高く評価されている。グループ5は遊歩道や公園に隣接した歩道で、総合評価を含めた各項目の評価が最も高い。最後のグループ6は幅員が2m以下の狭い歩道であるが、沿道の塀や石積み擁壁に面白味があり、評価値はそれほど悪くない。

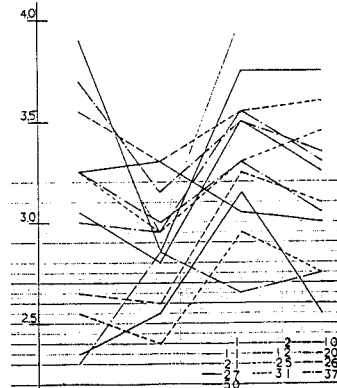


図.1 グループ1の各歩道の評価値

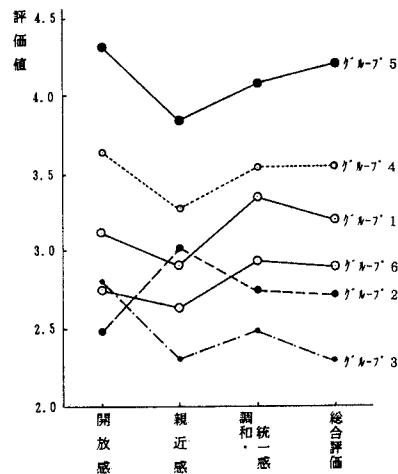


図.2 各グループの平均評価値の比較

**3-3 大阪的な街路景観の分析** 最も大阪的であるというグループに含まれる率が35%以上の4箇所の歩道について、定性的分析を行った。まず、景観評価の結果では、親近感が高く、開放感に乏しいという共通点があった。これを、歩道景観の実態に結びつけて考察すると、1)アーケードや並木の枝の張り出しによって空がほとんど見えない、2)歩道上に人や看板・自転車などが多く見える、3)赤系統の色を持つ景観構成要素がある、等の共通点が見いだされた。



写真.1 大阪的な歩道

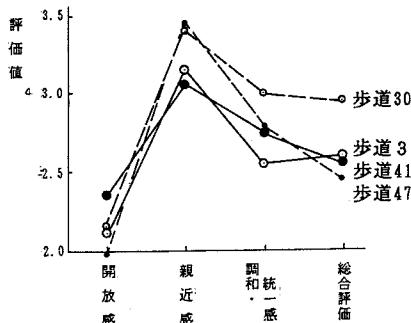


図.3 大阪的な歩道の景観評価値

**3-4 景観評価の要因** 歩道幅員及び歩道の舗装材によって評価対象歩道群を分類し、景観評価との関係を分析した。①歩道幅員：歩道幅員と評価値の間には有意な相関関係が認められなかった。②舗装材料：対象歩道の舗装は、インターロッキングブロック、タイル、アスファルトコンクリートやそれらの組合せなど、8通りに分類される。他の景観構成要素の影響が強く、舗装材毎の評価値の分散が大きかったが、最も評価の高かったのは石または擬石タイル舗装、次いでインターロッキングブロックである。また、アスファルトの歩道で評価値が最も低かった。

#### 4. 街路景観の色彩分析

3. で述べた6グループから代表的な歩道を選び、その色相と彩度の関係を分析した（結果の一部を図.4～6に示す。各グループの特徴は次の通り

である。オフィス街的なグループ1では、空の色とその周辺に色が固まっており、その他には目立った基調色が存在しない(ケル)。G2では空以外に、赤(120°)付近に彩度の高い色が集まっている(雑然、雑)。G3では全般に彩度と明度が低く基調色が存在しない(薄暗い、寂しい)。G4とG5では赤系統(60°～150°)付近に基調色がみられるが、彩度が0.3以下となっている(落ち着き)。最後のG6はG4、5とはほぼ同様の彩度の低い基調色があるが、他の色相で彩度の突出が見られる(すこし雑然)。

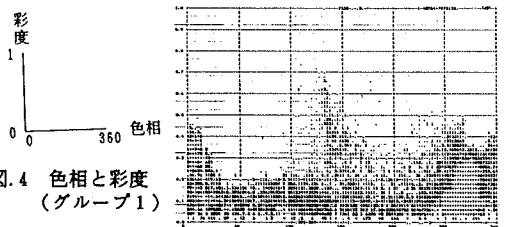


図.4 色相と彩度 (グループ1)

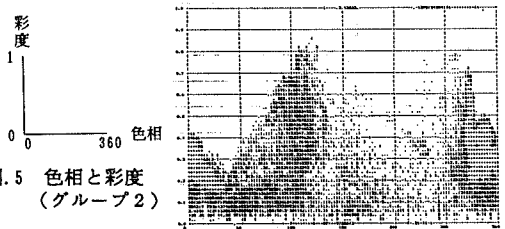


図.5 色相と彩度 (グループ2)

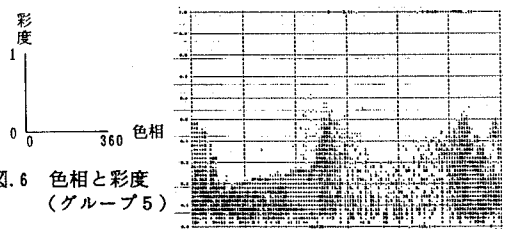


図.6 色相と彩度 (グループ5)

#### 5. 街路景観の特性に応じた街路景観の修景

アンケートと色彩分析の結果から、街路の類型または位置づけに応じて、効果的な修景手法がそれぞれ異なっていることが示唆された。

#### 6. 今後の課題

今後は被験者の属性に幅を持たせたアンケートの実施、色彩分析の掘り下げによって、より詳細な分析を行い、目的に応じた効果的な修景・造景手法を見いだしていく必要がある。

#### 参考文献

- 1) 榎原, 福井, 三宅, 土橋: CGを援用した景観色彩分析システム(第44回年次学術講演会講演概要集)